

人間科学部 心理学科(※2023年度より適用)

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー(編成方針)
共通科目(全学統一)	A-1 幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
	B-1 学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
	C-1 修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
	D-1 社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
専攻科目	A-2 人間一般の心の機能について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(認知領域)」等を中心に、認知心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次より系統的・段階的に配置する。
	A-3 人間の生涯にわたる成長や発達について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(教育・発達領域)」等を中心に、教育心理学及び発達心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
	A-4 日常場面や産業場面において、他者との関わりや状況の影響を受ける人間行動について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(社会・産業領域)」等を中心に、社会心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
	A-5 心身の健康・ストレス、および心理的援助に関する基本について説明することができる。	「基礎専門に関する科目」や「応用専攻科目(臨床領域)」等を中心に、臨床心理学に関連する基礎から応用に至るまでの知識を修得するための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
	A-6 心理学の基礎的な手法である研究技法や測定技法、分析技法の知識を習得し説明することができる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、心理学における基礎的な手法に関する知識と技能を身に付けるための科目を1年次及び2年次を中心に配置する。
	A-7 実践場面や心理学的支援において必要となる、隣接する関連分野の知識を習得し説明することができる。	「応用専攻科目(臨床領域)」等を中心に、実践場面や臨床場面で必要となる基本的知識や技能を身に付けるための科目を1年次から配置する。
	B-2 心理学的な視点から、グローバルな事象について考察することができる。	「応用専攻科目(文化・環境領域)」等を中心に、文化や環境と人間の行動やこころの影響過程について理解し、心理学的な視点から考察する能力を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
	B-3 コミュニケーション能力およびカウンセリングマインドを身に付け、対人関係の支援や円滑な人間関係の構築・維持に活用することができる。	「応用専攻科目(臨床領域)」及び「実験・実習に関する科目」等を中心に、対人場面や心理学的支援において有効なコミュニケーション能力や心理学的技法を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。
	B-4 身の回りの事象の中から心理学的な課題を発見し、課題解決に適切な研究計画を立案し研究を実施することができる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、人間行動について科学的・客観的に思考し検証する上で必要な実践的知識と技能を身に付けるための科目を2年次及び3年次を中心に配置する。
	B-5 心理データを適切な統計手法により分析し、その結果を読み解いてわかりやすく人に伝えるよう表現できる。	「研究法に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、統計的な分析とプレゼンテーションに関わる実践的知識と技能を身に付けるための科目を1年次から系統的・段階的に配置する。

C-2	日常生活や身近な事象から発見した課題を、心理学的方法に基づいて科学的に検証し解決することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・模擬的な課題解決を体験し実践力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
C-3	修得したコミュニケーション能力を、さまざまな実践場面で活用することができる。	「演習・卒業論文に関する科目」や「実験・実習に関する科目」等を中心に、身に付けた専門性を活かして実践的・模擬的な対人場面や支援場面で体験し実践力を身に付けるための科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
D-2	人間についての多面的理解を、自身や身の回りの人の心身の健康や幸福な人生のために役立てることができる。	「応用専攻科目」等を中心に、5領域にわたる幅広い領域の心理学を理解するための講義科目を1年次から系統的・段階的に配置する。
D-3	的確な情報収集と分析に基づいた客観的な観点から自他の置かれた状況や社会的な現象を捉えようとするすることができる。	「実験・実習に関する科目」等を中心に、課題解決型の実習科目を2年次から4年次にわたって配置する。
D-4	心理学的支援に求められる基本的な知識と技術(傾聴、アセスメント)を身につけ、心の援助を必要とする人や社会に対して適切な支援をすることができる。	「心理演習」や「心理実習」等、心理学的支援に貢献できる実践力を身に付けるための臨床実践科目を3年次から4年次にわたって配置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリ】	
A:知識・技能	
B:思考力・判断力・表現力等	
C:総合的な学修経験・創造性	
D:態度・志向性	

カリキュラム・ポリシー(実施方針)
<p>①心理学分野の教育課程の編成を踏まえて配置された各授業の内容に応じ、下記の4項目に示す授業形態を採る。</p> <p>a)知識・理論及び汎用的な技能等の修得を目的とする教育内容に関しては、講義形式を主とした授業を以て行う。</p> <p>b)思考力・判断力・表現力等の修得を目的とする教育内容に関しては、演習形式を主とした授業を以て行う。</p> <p>c)現実場面や実務等に即した実践力の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・実践形式を主とした授業を以て行う。</p> <p>d)主体的に課題を発見し解決しようとする意欲や生涯にわたる自律的な修学態度等の修得を目的とする教育内容に関しては、実習・演習形式を主とした授業のほか、卒業研究の実施と発表等の場を以て行う。</p>
<p>②各領域一定の科目において、心理学の学修と結びついた実践的な英語力とグローバルな考察力を育成するため英語を用いて行う。</p> <p>・実験や実習、研究法、演習等を中心に多くの科目において、実践的能力の修得と主体的学修の促進のため、グループワークやプレゼンテーションを取り入れ、実験・調査・観察・検査等の実施やフィールドでの実習を行う。</p>

1. 求める学生像

心理学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

高等学校で履修する主要教科・科目の内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

心理学の学びに必要な理解力、思考力、判断力、表現力等を有する者

〔目的意識・意欲〕

- ① 社会及び人間について学ぶことに興味を持つ者
- ② 他者と協力して課題を発見し、解決することに意欲を持つ者
- ③ 心理学の知識を活かして社会に貢献することに意欲を持つ者

2. 選抜方法

心理学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・共通テスト併用型入試では、大学入学共通テストの数学または理科の得点を合否判定に利用し、心理学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

(2) 総合型選抜(総合型入試)

総合型入試では、数学科目の履修や英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力及び語学力を有する者を対象とする。受験者に講義に基づく試験により一次選考を行ったうえで、グループディスカッション及び個人面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜(外国人入試、国際バカロレア入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の日本語能力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。